

家電不法投棄、後絶たず



不法投棄された大量のテレビ伊賀市内で

【伊賀】伊賀地域で電化製品の不法投棄が後を絶たない。特に深刻なのは、地上デジタル放送の移行によるブラウン管テレビの不法投棄。伊賀、名張両市は不法投棄の監視に努めているが、現在も山間部を中心に多くの廃棄物が捨てられている。行政は住民を巻き込んだ監視体制を早急に整備すべきだ。

(伊賀総局・海住真之)

伊賀地域の廃棄物問題

名阪国道のインターを下 四十年代に宅地として開発りて、五分ほどの距離にあ されたが、現在は荒れ果 伊賀市内の雑木林。昭和 七、狭い道路や門が残って

いるだけだ。入り口には「不法投棄禁止、伊賀署」と書かれた看板が立つ。雑草や枝をかき分けて十分ほど歩くと、行き止まりには大量のブラウン管テレビが山積みになっている。そのまま捨てられたものや外装



われた。近くにある池を通 じて有害物質が流れ込まな いか心配だ」と話した。

背景には地域特有の事情 がある。伊賀地域は各県と の県境に位置し、隣県から の移動は名阪国道や新名神 高速道路が中心。伊賀署は 「幹線道路から容易に山間 部に入れることが違反者に とって不法投棄をしやすい 環境になっている」と指 摘。同署は伊賀地域で側溝

る体制を目指し、自治会な どを通じて住民に協力を呼 び掛ける方針だ。

伊賀市内の空き地を借り て、古物の買い取りを営む 男性(み)がいる。男性によ って、大量の廃棄物を生み 出した。また、山林や道端 に捨てられた廃棄物を、 「他人の土地だから」と、見過ごしてきたことも否定 できない。不法投棄に強い 監視の目を向けるとともに、現代のわれわれの暮らし ぶりについても一度、考 え直してみる必要がある。

電化製品の不法投棄は年々増えつつある。家電リサイクル法で定められたテレビ、エアコン、洗濯機、冷蔵庫の家電四品目について、名張市では平成二十一年度の回収量が七十三台だったのに対し、昨年度は二百四十四台と約三倍になった。うち、テレビは百五十二台と、半数以上を占める。相次ぐ不法投棄に対し、名張市では二十一年度から、緊急雇用の一環として

地デジ化でテレビ急増

自治体、監視体制強化急ぐ

だけのもののほか、ガラスも散らばっている。

伊賀市清掃事業課は、この土地が大府内の不動産会社が所有する私有地であることから、「行政に手出しはできない」と説明する。しかし、電化製品には

鉛などの有害物質が含まれている場合があり、そのまま放置されれば環境に悪影響を与えかねない。近くの対策室は「リサイクル料の負担を避けて、不法投棄に向かう安易な考え方が横行している」と分析する。

「環境レンジャー」を組織。六人が不法投棄の監視も映らなかつた、持ち込む人が多い。これまでは問題なく使えた物なのに、もう使えない話だ」と話す。

「不審な軽トラックが入るところを見たが、行政に相談しても対応できないと言

わ。近くにある池を通 じて有害物質が流れ込まな いか心配だ」と話した。

背景には地域特有の事情 がある。伊賀地域は各県と の県境に位置し、隣県から の移動は名阪国道や新名神 高速道路が中心。伊賀署は 「幹線道路から容易に山間 部に入れることが違反者に とって不法投棄をしやすい 環境になっている」と指 摘。同署は伊賀地域で側溝

る体制を目指し、自治会な どを通じて住民に協力を呼 び掛ける方針だ。

伊賀市内の空き地を借り て、古物の買い取りを営む 男性(み)がいる。男性によ って、大量の廃棄物を生み 出した。また、山林や道端 に捨てられた廃棄物を、 「他人の土地だから」と、見過ごしてきたことも否定 できない。不法投棄に強い 監視の目を向けるとともに、現代のわれわれの暮らし ぶりについても一度、考 え直してみる必要がある。